百枚めの写真 一銭五厘たちの横丁
(トム・プロジェクト プロデュース)

言わせて! 今日の芝居
五十字劇評 No.18

【二〇代】

▼平成生まれの身には遠い昔のことに思える戦時中の日本の、ほんの一欠片が目の前にありありと浮かんで見えたようでした。娘、息子を戦争で亡くした母親の胸の張り裂けんばかりの悲しみと、大黒柱として・男として涙を見せまいと感情を押し殺し必死にこらえていたであろう父親の冷静な声。涙が止まりませんでした。月並みなことを申しますが、こういったテーマの劇はこれからも必要であり、戦争がいかに悲しいことか忘れてはいけないと思います。 (女性)

【三〇代】

▼もう一度この写真に写る人々に血を通わせたいという児玉さんの思いによって、この演劇に出会えて良かった。 (女性)

▼役と役者の年齢差に観ていて違和感がありましたが笑いも含めたセリフに、いつの時代も変わらない日常があったんだろうなと思いました。施設に入所している祖母のアルバムを整理してみようと思います。 (女性)

【五〇代】

▼戦争はイヤだ。普通の家庭の日常を基にして描かれるメッセージ。若い観客にこそ、みてほしい確かな芝居だ。 (女性)

【六〇代】

▼「戦争」は歴史と思っていたが、登場人物を身近な人に置き換えると涙が溢れてきた。なんと理不尽で、悲しくて、悔しいのか!(男性)

▼芝居を見ているというより自分がその時代に居る感覚になり、一緒に泣き笑いの時間を過ごせて良かったです。 (女性)

▼戦地にいる家族を想い遠くを見る瞳が悲しい。「正義」を装ってやってくる戦争について考え、過去に学ぶことを忘れずにいたい。 (男性)

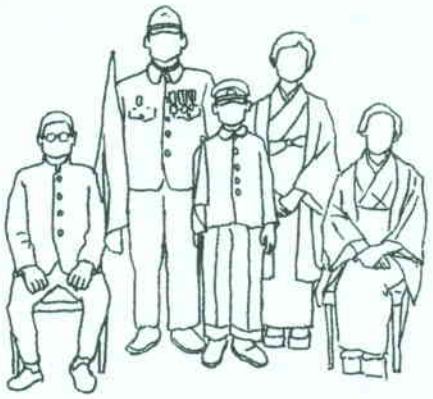
▼原作の児玉さんのエネルギーに感動致しました。そのお陰で戦時中の国民の方々の生活を知ること感じる事出来ました。 (女性)

▼軍によって色々画策された話は聞いていましたが、戦場の兵士に届けるために家族の写真を撮られた話は、初めて聞きました。権力のある人たちのすることに、本当に憤りをおぼえます。元新聞記者の話から、写真の氏名のわかった方々の話は切なかったですね。私も、百枚めの写真にはなりたくないと思いました。もっと若い方たちにも観てほしいお芝居ですね。後列でしたが、俳優さん達の声のすばらしさにも感動しました。 (女性)

▼情報の氾濫する今とは違い、貴重な1枚の写真に様々な思いが汲み取れたと思います。背景に戦争はあっても、暗さを感じない良いお芝居でした。 (不詳)

▼淡々としているけど悲しい話。にこにこしているうちに戦争はすぐそこまでくる。しっかり自分の考えを持ち発言していこう。 (女性)

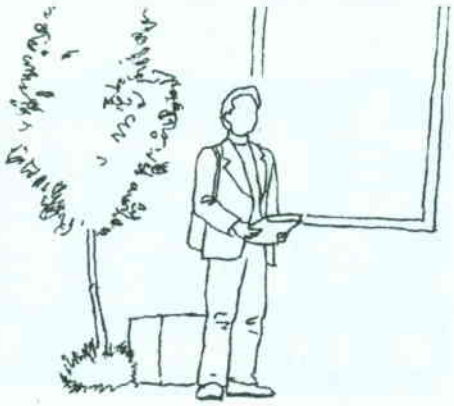
▼『普通の人々にとっての戦争』の物語。「新しい戦前」といわれる今、手遅れにならないためには?と問う力作。 (男性)



▼家族への想いが溢れる写真に圧倒され、涙が止まりませんでした。士気高揚のために家族の絆を利用する世の中を、くり返してはならないと思いました。（女性）

▼舞台とスクリーンの映像が新しい感覚のお芝居でした。それぞれの写真一枚一枚にも、家族の物語があるのだろうなあと思いました。（女性）

▼運が良いとか、悪いとかで決められたら、あまりにも悲しい。百枚めの写真はもう必要ない社会に！（女性）



▼私の母は、戦争で亡くなった前妻をずっと供養し亡くなり、今は三人同じ墓で眠っています。先人達に涙です。（不詳）

▼息子の死を告げられた場面で、母と妻の悲しみ方が、動と静と対象的で、妻の悲しみが嗚咽と共に心に突き刺さった。（男性）

▼戦争・軍隊は、一人の人間を「人格ある個人」と認めていない。だから殺されても痛みを感じることはない。戦争の反省から、現憲法は生まれたはず。でも、その憲法も危機にさらされ、戦争への道を進もうとしている。始まったら止められない戦争！だから始めさせてはいけない。百枚めの写真を撮らせてはいけない。（男性）

▼舞台に提示される写真の向こう側に、それぞれの家族の、それぞれの生活があったことを、あらためて感じた。出征者に対し、「おめでとうございます」、「ありがとうございます」というやりとりは、とても残酷に響いた。名もなき人びとの「戦争」に翻弄された生活を、淡々と、時には激しく描いた舞台に、深く静かな感動を覚えた。（男性）

▼写真の全ての方々が出演者でした。以前訪れた靖国の遊就館が思い出され、胸のゆらぎが増幅されました。多くの人に観てほしいと思いました。（女性）

【七〇代】

▼正直余り期待しないでのぞみました。でも私の予想は変わり、ぐいぐい舞台にひきこまれる自分がそこにいました。（女性）

▼今年は秀作揃いですね。毎回感動感激の波に襲われて眠る暇がありません。今回は前半は笑腹、後半は本物の涙が止まりませんでした。（女性）

▼「今が戦前になってはならない」特に強く思う日々！戦後100年を迎えるまで、元気で長生きしたい！戦争はイヤ！（女性）

▼国の役人が住民の命を利用するために自由に物を言えない世間を作った。原作者も写真家も実在した人なのが怖い。（女性）

▼戦争により残された家族の悲しみはもとより、影に隠された「教育」の大切さをもひしひしと感じさせられました。（不詳）

【年代・性別不詳】

▼戦争を知らない世代が多くなり、悲しい過去を語り継ぐ事の大切さを感じ、どうしたら世界から戦争がなくなるのか。

▼スクーリンに写しだされた下町の宿命的な光景と、舞台片隅で解説してくれた心にしみる深さに感動しました。

編集スタッフから

今例会「横濱短篇ホテル」は、1970から5年ごとに時代を切り取った7つの短編が物語を紡いでいく。あなたの歩んで来た人生と、どこかでオーバーラップするところがあるのでは？まさに、「芝居の向こうに自分の姿が見えてくる」作品です。芝居を観て湧き出てくるさまざまな思いを、劇評集にぜひ投稿して下さい。お待ちしています。